

内部河川・運河の活用とコミュニティ強化プロジェクト

| | |
|-----|--|
| 代表者 | 志村秀明【教授】(工学部 建築学科) |
| 構成員 | 中野恒明(システム理工学部 環境システム学科)／郷田修身、原田真宏、堀越英嗣(工学部 建築学科)／守田優、遠藤玲(工学部 土木工学科)／清水郁郎、佐藤宏亮(工学部 建築工学科)／篠崎道彦、桑田仁(デザイン工学部 デザイン工学科) |

江東区・中央区・港区の河川や運河は、アメニティや景観の向上、都市環境改善、観光振興、災害時対応などでの再生と活用が求められる。また、これら地域では、都心回帰に伴う人口増加が続く一方で、日常時のふれあいや社会教育、緊急時の相互扶助などに重要な役割を果たす地域コミュニティは希薄化している。

これら地域課題の解決に向けて、PBL型の演習の実施や地域志向科目の必修化を進める。特に、都心部においては、河川・運河をPBLの素材や新旧住民を含む地域の触媒として活用することに特色がある。

都心部以外でも、中山間地域で過疎化と産業衰退が著しい南会津町、高度成長期に整備した公共施設が更新期を迎えるさいたま市なども、都心との比較や連携の対象として、より幅広いコミュニティ強化を目指す。

教 育

5学科17科目(2年～4年)で、幅広く地域志向教育の推進を行った。建築学科では、PBL「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ」「地域分析演習」「地域設計演習」「建築ゼミナール2」、講義「地域計画」を行った。建築工学科では、PBL「建築設計3C・3D」「建築ゼミナール2」、講義「地域計画1・2」を行った。土木工学科では、PBL「環境計画演習」、講義「都市の計画」を行った。環境システム学科では、PBL「景観・環境デザイン演習」、講義「景観・環境デザイン」を行った。デザイン工学科では、講義「都市施設計画」を行った。

PBLにおいては「サービス・ラーニング」(社会貢献学習)として、実際に地域に入り込み活動を行うことを理念としている。また、建築学科「地域計画」(2年・必修)では、2014年度から必修化を開始した。



「レクチャー&クルーズ」学生ガイド

研 究

「アクション・リサーチ」(活動的研究)を理念とし、都心部のベイエリアでは、運河ルネサンス協議会などと連携して「船カフェ」「豊洲水彩まつり」「江東水彩フェスティバル」「レクチャー&クルーズ」などの社会実験を実施し、成果を検証するための調査などを行った。また、江東区内部河川と運河の水質調査、月島地区の長屋再生などに取り組んだ。

南会津町では、現地で3回の集落再生活動を実践するとともに、本学芝浦祭での物産展として都心との連携活動を行った。さいたま市では、公共施設再編に関する市民ワークショップを市・NPOとの連携体制のもとに実施した。

これらの活動は、卒業論文・研究(8本)、大学院生による学会発表(3本)として、取りまとめ、情報発信された。



「月島長屋学校」

社 会 貢 献

上記の社会実験は、サービス・ラーニングやアクション・リサーチの理念に基づいており、地域課題の解決に向けた行動を実践するという意味で直接的に社会貢献となる。また、研究過程で、地域の市民、NPO、企業、自治体等との協働による調査・分析・提案を行うことで、学生と地域が相互に学ぶ知の交流という効果も併せ持つ。

社会実験以外にも、本学の公開講座、中央区・港区主催の講座、NPOと連携した講座などにより、地域に対して本学の持つ知を公開した。



芝浦祭での南会津町物産展